

フラッシュユ

JA青森



ネギ部会 栽培講習会と通常総会 (2/6)

JA青森ネギ部会は、青森市で講習会と2023年度通常総会を開き、部会員13人が出席した。

講習会では、渋谷種苗店の渋谷哲平氏が講師を務め、丈夫なネギの栽培について、主力品種の「夏扇パワー」を中心に、各品種のおすすめの作型や特徴、長所を説明した。

総会では、4つの議案が賛成多数により、無事可決された。

JAつがるにしきた



4年ぶりの農協まつり 小学生ら元気に餅つき(2/9)
JAつがるにしきた鶴翔統括支店は、鶴田町で4年ぶりの農協まつりとなる「ふれあい感謝祭」を開き、約240人が来場した。
第1部では鶴田町立鶴田小学校の3年生約80人が、JA職員や青年部、女性部と一緒に餅つきを行った。第2部では、ステージショーや豪華景品抽選会が行われ、組合員や地域住民がイベントを楽しんでいた。

JAごしょつがる



今年の天候は？ 旧暦から学ぶ (2/6)

JAごしょつがる指導課は、つがる市で高島暦を読み解き天気を予想する「天気のはなし」と題した講習会を開き、約50人の生産者が参加した。

講師を務めた(株)渡辺採種場青森店の小室隆信店長が雨の量、乾燥の度合い、風の強さ等、高島暦から読み取れるポイントを説明した。



JAつがる弘前

啓翁桜 市長に贈る (1/25)

JAつがる弘前の丸岡義昭常務と、販売部、指導部職員は、弘前市役所を訪れ、櫻田宏市長に啓翁桜を贈呈した。市役所を訪れた市民に一足早い春を届けようと毎年贈呈している。

12月ごろに収穫した枝を18度に保ったJAの促成室で温め、つぼみがピンク色に膨らみ次第、首都圏へ出荷している。今年は約3万本の出荷を見込んでいる。

JA相馬村



共同防除連合会幹部研修会 (2/21)

JA相馬村共同防除連合会は、弘前市で幹部研修会を開いた。全国的に農業の現場でICT技術活用が進められていることもあり、同研修会では、スマホアプリに作業記録や散布農薬の種類・時期を記入することで管理できる「あい作」の操作説明会が行われた。また、りんご輸出の重要性についての講演会も行われた。

地元野菜で調理実習（1/30）

JAゆうき青森は、六ヶ所村立千歳平小学校で調理実習を行った。食育ソムリエの資格があるJA職員で構成する「食育ソムリエの会」から5人が講師として参加し、5年生の児童9人とともに調理を行った。
実習は3班に分かれ、地元特産品の野菜を使ったナガイモのポテトサラダとゴボウハンバーグ、ダイコンのスープを作った。



JAゆうき青森

女性農業者が剪定技術学ぶ（2/5）

JA津軽みらい尾上グリーンセンターと石川グリーンセンターは、平川市で「女性のためのリング剪定会」を開いた。剪定会は2017年から行っており、女性農業者13人が参加し、剪定作業の知識と実技を学んだ。参加者は「女性だけでなく、質問しやすく、勉強になった。これからも知識を身に付け、作業に努めていきたい」と話した。

JA津軽みらい



JA十和田おいらせ



外国人技能実習生が先生

地元小学生との交流会（2/14）

おいらせ町立甲洋小学校の5・6年生39人は、日本で働く外国人を講師に迎え、海外の生活スタイルや伝統料理などを学んだ。

児童は、教科書には載っていない世界情勢や文化を学び、日本の安定した食と生活のありがたみを実感した。同授業「国際理解教室」は夢をもつことと共生社会を築くことが目的。

JAおいらせ



営農講座開催（六戸町1/30〜2/2、JA本店2/6〜9）

JAおいらせは、六戸町とJA本店で営農講座を開いた。本店合わせて16の演題を設け、上北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室など11の団体から講師を招き行われた。
JAおいらせからは、営農部六戸支店指導課の川村一真係長が講師として「土壌診断結果の見方・用語解説」について講演した。

JA八戸



野菜総合部会田子支部販売報告会（2/16）

JA八戸野菜総合部会田子支部は、田子町で野菜総合部会田子支部販売報告会を開き、部会員58人が参加した。

JAの販売担当より、2023年産の販売報告として収量減の品目があったが、猛暑で市場の出回りが減少、単価は良好で推移したと報告があった。田子支部では、24年産全体として、取扱数量1045ト、販売金額5億4800万円（前年対比103%）となった。

県農協青年部による将来を見据えた政策提言プロジェクト

県農協青年部協議会は1月31日、青森市の県農協会館で「県農協青年部による将来を見据えた政策提言プロジェクト」を開き、県内青年部役員7人が参加した。

このプロジェクトは将来、地域の中核を担う農協青年部員が食と農についての必要な課題を整理し、解決策を検討、そして自らが行動する仕組みを構築することが目的。

酪農学園大学農食環境学群循環農学類の正木卓准教授を招き、第1回目今回は地域農業の課題と目標とすべき将来像について議論が交わされた。

参加者からは、農地の集約や流動化・地域を担う人材確保に対する課題や深刻化する鳥獣害対策、地方行政（県や市町村）との連携など幅広く意見が出された。

第2回目は今回出された課題への解決方法や将来像を実現するための必要なツールについてグループワークを行うこととしている。



▲課題を出し合う青年部役員ら

婚活事業にかかる説明会

県農協青年部協議会は1月31日、青森市の県農協会館で婚活事業説明会を開き、県内盟友など11人が参加した。

講師は県子ども未来課子育て支援グループの大橋聡子主幹が勤め、県の少子化の現状や婚活支援の内容について、県が取組む「あおもり出会いサポートセンター」の支援体制やあおもりマッチングシステム「A1（あい）であう」の登録状況や成婚率の説明があった。

JAおいらせ女性部とファミマが共同開発！青森県産ごんぼ（ごぼう）の鶏めしおむすびPR

JAおいらせ女性部とJA全農、ファミリーマートの関係者は2月6日、宮下宗一郎県知事を表敬訪問し、JAおいらせ女性部が発案した「青森県産ごんぼ（ごぼう）の鶏めしおむすび」をPRした。

JA全農とファミリーマートが全国のJA女性組織からアイデアを募って開発した8商品のうちの1つで、応募総数130点の中から東北地方で唯一選ばれたおにぎり。

発案はJAおいらせ女性部三沢支部長の駒澤恵子さん。同JAが生産量日本一を誇るゴボウをふんだんに使い、国産鶏もも肉と一緒に甘辛く煮込み甘めのご飯に混ぜ合わせた。

おにぎりを試食した宮下知事は「ゴボウの味がすごく良く出ていて優しい味。ネーミングも良く、女性部の方が握っているようなイメージが湧いて食べる前から美味しそうな感じがする」と話した。

1個168円で、東北6県のファミリーマートと新潟県の一部店舗で2月6日から販売されている。



▲宮下知事㊦と駒澤さん

迅速な対応、作業効率の改善を目指して

ＪＡ青森中央会は２月１９日、青森市の県農協会館で２０２３年度第２回営農ＩＣＴ情報システム作業部会を開き、県内ＪＡの担当者など約１５人が参加した。

営農ＩＣＴ情報システムの利活用等にかかる作業部会を設置し、今後、ＪＡで活用できるシステムの利活用や新たなＩＣＴ技術の内容等について検討することを目的に２０２２年度より年２回開いている。

作業部会では、㈱青森共同電算センターの担当者らが生成ＡＩを活用する上での注意点や実際のアプリの使い方を説明した。主催した担当者は「まずは、生成ＡＩの機能を知り、課題・危険性を理解してほしい」と話した。

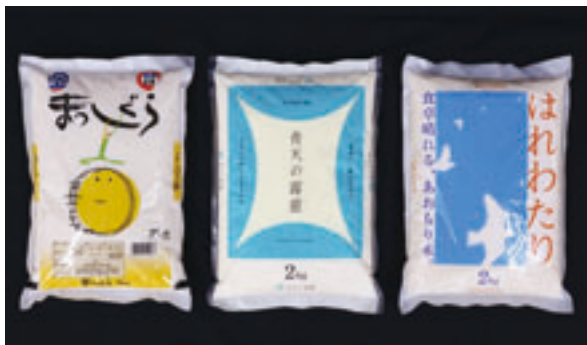


▲生成ＡＩについての説明を聞く参加者ら

青森米の美味しさを全国の人へ

ＪＡグループは「国消国産月間」の１０・１１月に、全国ＪＡ直売所で「実りの秋！国消国産ＪＡ直売所キャンペーン」を展開し、合計１４，１００人に農畜産物・加工品が当たるプレゼントキャンペーンを実施した。賞品は各都道府県の担当者が魅力ある自慢の農畜産物・加工品を全国の人に知ってほしいとの思いで選定した。

青森県からは新ブランド米「はれわたり」を含む、２０２３年産青森米３銘柄（青天の霹靂・まっし



▲発送された青森米３種食べ比べセット

ぐら・はれわたり）食べ比べセット（２キロ×３袋）を１月下旬、当選した３００人に発送した。担当者は「キャンペーンをきっかけに青森米の美味しさを全国の人に知ってもらえれば嬉しい」と話した。



行事（３／１０～４／１０）

３月

- 11日 「いのちはぐくむあおもりの農林水産業」贈呈式（県庁）
- 11～12日 監事監査研修会（アップルパレス青森）
- 14日 JA 営農担当部課長会議（アスパム）
- 15日 県青協役員会、県下青年部長・事務局合同会議（県農協会館）
- 27日 臨時総会（県農協会館）

４月

- 4日 県女性協監査会・定例理事会（県農協会館）
- 8日 県青協通常総会（県農協会館）
- 9日 定例理事会（県農協会館）

こく しょう こく さん
 乃木坂46と一緒に学ぶ「**国消国産**」

乃木坂46と一緒に「国消国産」を楽しく学べるコンテンツが盛りだくさん！
 特設ウェブサイトにてぜひアクセスしてみてくださいね！！

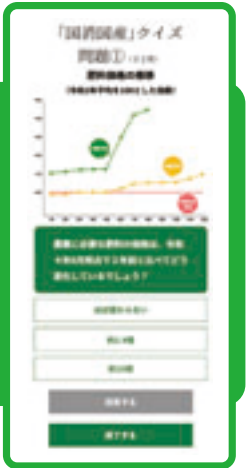


乃木坂46メンバー7人それぞれが“選ぶ楽しさ”や“つくる嬉しさ”などを表現！！

【TikTok】
 乃木坂46メンバーが「国消国産」の意義やJA直売所の魅力、国産農畜産物等のすばらしさをテンポよく紹介！

【動画】
 乃木坂46が出演する28本の動画が勢ぞろい。「国消国産」を学べるものや、メンバーが推し食材の魅力等を全国各地で体当たりレポートした「国消国産を学ぼう！」シリーズなど、多彩な動画をラインナップ！！

【クイズ】
 「国消国産」の理解に大切な食や農に関するトピックを題材にしたクイズ。合計クイズ数は21問！分かりやすい解説付き。新しいクイズも順次公開！！



※サイト構成の一部を加工しています

※2022年クイズの内容を加工しています



乃木坂46 国消国産 🔍



JAグループ 耕そう、大地と地域のみらい。



2023年度 第2回 営業戦略会議を開催

JAバンク青森では、2月22日に貸出強化に向けた「営業戦略会議」を開催し、各JAからウェブ出席も含めて38名の融資担当者・役員者が出席した。

本会議は、JA融資担当者の推進力強化を目的として開催しているもので、農機具メーカーやハウスメーカーに対する営業力強化、農業担い手との関係強化およびローン推進強化に効果を上げている。会議は前半の農業資金の部と後半のローンの部の2部構成で行われた。

前半の部では、農業領域における次年度施策の全体概要を確認した後、JA三井リース株式会社より、各種リースの特徴やリース導入のメリットについて、融資との比較を交えた説明があった。また、次年度施策の1つであるアグリビジネス投資育成株式会社が行う出資の活用について、出資候補先を絞り込むうえでの基準や見込まれるメリットについて説明があったほか、農業資金の中でも特に力を入れている農業近代化資金に関する2023年度の優良実例が紹介された。

後半の部では、ローン領域における次年度施策の概要および次年度のキャンペーン・PR内容を説明。協同住宅ローン株式会社より、当社の提供するローン保証の概要や審査のポイントについて情報提供があったほか、参考事例として具体的なローン申込みの内容とそれに対する審査判断・結果などが紹介された。

JAバンク青森では、引き続き本会議を通じて県内JAの融資担当者間の情報連携と各種融資推進活動の更なるスキルアップに取り組んでいく。



▲JA三井リース株式会社の説明に耳を傾ける出席者

青森県キャッシュレス納付推進宣言式に参加

農林中央金庫青森支店は、JAバンク青森を代表して、2月7日に青森銀行本店にて開催された「青森県キャッシュレス納付推進宣言式」に参加した。

「青森県キャッシュレス納付推進宣言式」は、県民・企業の利便性を向上させ、仕事の効率化や生産性の向上に寄与する国税・地方税のキャッシュレス納付のより一層の普及を目指し、国、地方公共団体、金融機関、関係民間団体が連携・協力し推進していくことを目的としたもの。

宣言式には、県内の行政機関や民間団体、金融機関が参加。最上治青森税務署長が共同宣言の趣旨を説明した後、宮下宗一郎青森県知事が「国税・地方税のキャッシュレス推進に向けて更なる機運の醸成を期待したい」と挨拶した。また、石川啓太郎青森銀行頭取は「今日はゴールではなくスタートである」と今後の取組みへの決意を述べた。最後に、参加団体を代表して青森県商工会議所連合会の倉橋純造会長が共同宣言を読み上げた。

青森県の2022年度の国税のキャッシュレス納付の利用割合は20%と、全国平均の28%を下回っている。政府は「オンライン利用率引上げの基本計画」において、2025年度までに国税のキャッシュレス納付割合を40%まで引き上げることを目標としており、キャッシュレス納付に関する官民共同の宣言は、東北地方では初の試みである。



▲宣言式に参加した団体の代表者ら

行事 (3/10~4/10)

農林中央金庫

3月

13日 「内部管理態勢強化に向けた取組み」および「JA体制整備モニタリング（2023事業年度末基準）の実施」にかかる説明会（ウェブ会議）

14日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（ウェブ会議）

農協電算センター

3月

27日 臨時株主総会（県農協会館）
臨時取締役会（県農協会館）
監査役協議会（県農協会館）

ながいも産地力強化戦略推進大会

青森県とJA全農あおもりは1月17日、十和田市のJA十和田おいらせ本店で「ながいも産地力強化戦略推進大会」を開いた。

大会は、生産者の栽培技術のレベルアップと、高品質・多収生産の推進のために毎年開いているもの。本年は「気象変動の克服」がテーマ。昨年、大雨の影響が多くみられたことから、排水性が良く耕土の深いほ場を選択するなど、基本的な排水対策が大切などと周知した。

3月頃から始まる春掘りについては、品質低下を防ぐために5月上旬の掘り取り終了を目標に計画的に作業を進めるよう呼びかけた。

また、16日に開いた共進会の入賞者7人を表彰した。最優秀賞として表彰されたのはJA十和田おいらせの山端正男さん。山端さんには農林水産大臣賞が授与された。

生産者の栽培技術向上と高品質・多収生産の推進を目的にした共進会には県内4JAから24点が出品された。審査基準の、規格や大小・形状の揃い、肉付き、毛穴や表面の凸凹の少なさなどから入賞者を選出した。

最優秀賞以外の入賞者は次の通り。かっこ内はJA名。

▽優秀賞＝立崎洋史（十和田おいらせ）、優良賞＝沼山直喜（ゆうき青森）岡山雄哉（同）竹内幾雄（おいらせ）寺澤和夫（十和田おいらせ）仁和千春（同）



▲表彰を受ける最優秀賞の山端さん



▲最優秀賞を受賞した山端さんのながいも

にんにくフォーラム

JA全農あおもりは県と共催で1月17日、十和田市のJA十和田おいらせ本店で「令和5年度にんにくフォーラム」を開き、入賞者や生産者など関係者らが参加した。5年9月8日に開いた審査会で選出した入賞者7人を表彰した。

最優秀賞として表彰されたのはJA十和田おいらせの佐藤茂寿さん。佐藤さんには農林水産大臣賞が授与された。

にんにくは全体の大小や形状、乾燥や表皮の状態などを審査し選出した。

このほか、5年は気温が高い状態が続いたことから、高温時のにんにくの乾燥方法について等の講演があった。

また、7年秋よりJAへの種苗供給が始まる新品种「青森福雪」の普及に向けた情報を共有した。

フォーラムは、にんにくの産地力強化に向け、さらなる収量・品質の向上をはかるために開いているもの。

最優秀賞以外の入賞者は次の通り。かっこ内はJA名。

▽優秀賞＝工藤宰（つがるにしきた）、優良賞＝東昇（十和田おいらせ）立崎洋史（同）久田稔（おいらせ）木野幸助（同）金澤幹雄（八戸）



▲表彰を受ける最優秀賞の佐藤さん



▲最優秀賞を受賞した佐藤さんのにんにく

土づくりレベルアップ研修会

J A全農あおもりは1月29日、青森市の県農協会館で土づくりレベルアップ研修会を開き、県内J Aおよび関係団体から担当者らが参加した。

近年の温暖化の影響で、特に令和5産米の生育や品質に高温障害等の影響が出ていることから、高温対策として、「どうする 高温に負けないコメづくり」と題し、秋田県立大学の金田吉弘名誉教授が講演した。

高温に負けないコメづくりのポイントは根を重視する管理だと説明し、参加者は、収穫後の稲ワラすき込みの均一化によって、移植後の根腐れを防止することや水管理の徹底など、栽培管理のポイントを確認し、ケイ酸質資材の投入による根の活性化と高温条件下における効果などを学んだ。

また全農あおもりが推進する、土壌診断による適正施肥やザルピオを活用した可変施肥試験内容についても情報共有した。

全農あおもり営農購買部の小田桐聡次長は「研修内容を担い手農家のサポートに繋げて欲しい」と呼びかけた。



▲コメづくりのポイントについて学ぶ参加者

土地利用型作物生産技術研修会

J A全農あおもりは1月29日、青森市の県農協会館で土地利用型作物生産技術研修会を開き、県内J Aおよび関係団体から担当者らが参加した。

「令和6年産に向けた水田農業に係る国の取組方針や事業内容について」と題し、東北農政局青



▲水田活用の直接支払交付金の交付対象などを確認する参加者

森県拠点統括農政業務管理官の大石俊明氏が講義した。参加者は、水田活用の直接支払交付金や畑作物産地形成促進事業の内容を学んだ。

交付対象水田について「5年間に1度も水張りが行われていない農地は交付対象としない」というルールについて、生産者から問合せが多いのが現状。水張りは、水稲作付けを基本とすることを再確認した。

また、全農による子実用とうもろこし実証状況や大豆安定生産技術について情報を共有した。

全農あおもり営農対策課の佐々木勉課長は「本日学んだ内容を、組合員に対する提案などに活かして欲しい」と呼びかけた。

牛乳ごっくんキャンペーン第3弾抽選会

J A全農あおもりと青森県牛乳普及協会は1月30日、青森市の県農協会館で、12月1日から1月19日まで実施した令和5年度第3回目となる「牛乳ごっくんキャンペーン第3弾」のプレゼント抽選会を開いた。合計13,646件の応募の中から、当選者200人を決定した。

当選者には賞品として、リファビューテックドライヤープロを5名様、津軽びいどろねぶた小鉢を40名様、飲むヨーグルトセットを100名様にプレゼントする。

県牛乳普及協会の担当者は「今年度も1年を通してたくさんの応募があった。キャンペーンが県内に浸透してきているのを感じる」と話す。



▲抽選する担当者ら

青森県J A農産物検査員鑑定競技大会

J A全農あおもりと青森県J A農産物検査協議会は2月2日、青森市の県農協会館で「第19回青森県J A農産物検査員鑑定競技大会」を開いた。

平成17年から農産物検査員の技術の研鑽と維持・向上を目的として開いている。今年度は、県内10J Aから40人が参加した。

競技は水稲うるち玄米及びもち玄米40点を30分以内で等級判定し、400点の持ち点から等級相違と時間超過による減点を行って採点した。

最優秀賞にはJ Aつがるにしきたの中畑伸也さ

ん、優秀賞にはJAゆうき青森の山口亮さんがそれぞれ選ばれ、県代表として3月8日に千葉県で開催される「JAグループ全国農産物鑑定会」へ出場する。

入賞者は次の通り。かっこ内はJA名。
▽優良賞＝鈴木良憲（八戸）、澤口隆秀（十和田おいらせ）、縄田尚伸（同）

ファンデリーとのコラボ商品を発売

JA全農あおもりは青森県産のニンニクとナガイモを使用した冷凍食品メニューを考案した。冷凍食品を販売する㈱ファンデリーとコラボしたもの。同社が運営するインターネットショップ「旬をすぐに」で2月6日から販売を開始する。

メニューは「青森県産ホクホク揚げニンニクとり唐揚げの長芋とろろがけ」。1食、税込み498円だ。県産の大粒で風味の良いにんにくとアクが少なく粘りが強いながいもを使用。素揚げしたホクホク食感のにんにくと鶏むね肉の唐揚げの上に、昆布だしの効いた粘りの強いとろろをかけた。

企画にあたった全農あおもりの担当者は「にんにくながいをたっぷり使用し、元気が出るようなメニューに仕上げた。多くの人に食べてもらいたい」と話す。

「旬をすぐに」では、国産食材100%にこだわり、素材本来の美味しさを引き出した冷凍食品を多く販売している。



▲県産にんにくながいをを使用したメニュー

農産物検査員育成研修修了式

青森県JA農産物検査協議会は2月6日、青森市の県農協会館で令和5年度農産物検査員育成研修修了式を開いた。

5年5月から2月まで関係法令や検査実技などの基礎を学び、各JAで行う米穀・小麦・大豆・そばの現場実習を行った。研修を受講した県内8JAの18人全員が修了し、代表してJAおいらせの熊澤艇大さんが修了証書を受け取った。

JA全農あおもり米穀部の長内敏也部長は「検査現場では自主的に鑑定訓練を重ね、厳格な鑑定技術を身につけることが重要。生産者が作った農

産物の品質を適正に評価・格付けし、一人前の検査員として活躍してほしい」と話した。

修了生は検査員登録などの手続きを経て、6年産から農産物検査にあたる予定。



▲修了証書を受け取る熊澤さん

「おにぎりのやくそく」出版記念イベント

JA全農あおもりと青森米本部は2月16日、青森市のすぎのご幼稚園で、オリジナル食育絵本「おにぎりのやくそく」の出版を記念したイベントを開いた。園児約170名が参加し、絵本の読み聞かせやダンス、おにぎり教室などを通じて盛り上がった。

イベントでは、ミス・クリーンライスあおもりが「おにぎりのやくそく」の読み聞かせを行い、園児たちは青森の農畜産物をテーマにした物語に聞き入った。会場にはお米大使も登場し、園児たちと一緒にモリモリダンスを披露した。

また、年長児向けにおにぎり教室を実施。炊きたての青天の霹靂を使っておにぎりを作り、あおもり米の美味しさを堪能した。

同イベントは、子どもたちに食べることの楽しさを知ってもらい、県産品への親しみをってもらうことを目的としたもの。今後も県内各地の保育園や幼稚園で開催する予定。



▲読み聞かせを聞く園児

行事（3/10～4/10）

4月
9日 運営委員会（県農協会館）

共済事業担当常勤理事会議の開催

JA共済連青森は、1月31日にJA共済ビル(東京都)において「共済事業担当常勤理事会議」を開催した。

開会にあたり、沼田本部長は会議への出席と共済事業をはじめJA事業全般に尽力していただいていることについて感謝の言葉を述べ、「本日の会議では今年度の目標達成に向けた取組みについて改めて確認いただき、全JAが目標達成に向けて頑張っていたいただきたいことと、全共連の事業計画書(案)や共済事業体制総点検運動について説明させていただきます」と挨拶した。

次に全共連高橋常務より挨拶の言葉をいただき、全国本部東北・北海道地区担当伊藤部長より全国普及推進状況等の情勢報告が行われた。

会議では令和5年度目標達成に向けた今後の取組み、令和6年度事業計画書(案)、共済事業体制総点検運動、組合員・利用者本位の業務運営、令和6年度地域・農業活性化の取組み、令和6年4月実施予定の生命総合共済、6月実施予定の自動車共済の仕組改訂・共済掛金率変更について説明し、積極的な質疑応答が行われた。



▲挨拶をする沼田本部長

拡大共済担当部課長会議の開催

JA共済連青森は、2月9日に県農協会館において「拡大共済担当部課長会議」を開催した。

開会にあたり、葛西副本部長は現在の実績状況について、複数のJAが推進目標を達成しており、LA実績では前年比を上回っていることから、LAおよび各JAに尽力いただいていることに感謝の言葉を述べた。

会議では1月31日に開催された共済事業担当常勤理事会議と同内容の資料の説明をし、協議が行われた。



▲挨拶をする葛西副本部長

仕組改訂・事務改善事項研修会の開催

JA共済連青森は、令和6年4月・6月実施予定の仕組改訂に向けて、2月14、21日にオンラインによる「仕組改訂・事務改善事項研修会」を開催した。LA管理者、共済担当管理者、LA、共済担当者を対象に、令和6年度の仕組改訂および事務手続き・帳票様式等の変更にかかる知識を習得し、JAにおける契約者・利用者への対応が迅速・適正に実践されることを目的としている。

令和6年4月実施予定の生命総合共済の仕組改訂では、JAの事務負担軽減や仕組みの分かりやすさ向上を目的に、活用実績や仕組みの整合性等の観点を踏まえ、一部制度の廃止と、所要の変更が行われる。

【仕組改訂内容】

1. 割りもどし金の共済掛金と相殺払いの廃止

生命総合共済の割りもどし金の割りもどし方法は、①共済掛金との相殺払い②据置ききの2種類が併存しているが、近年、①共済掛金との相殺払いを選択する契約は少なくなっている等の背景がある。契約者・JA双方にとってシンプルで分かりやすい制度とするため、割りもどし金の共済掛金との相殺払いを廃止とする。

2. 年金支払移行特約における保証期間付夫婦連生終身年金の廃止

年金支払移行特約は①保証期間付終身年金②定期年金③保証期間付夫婦連生終身年金(以下、夫婦年金)から選択できるが、近年、③夫婦年金を選択する人は少なく、選択する場合、特有の事務処理が発生する背景がある。事務処理・説明負荷等を軽減するため、年金支払移行特約における夫婦年金を廃止とする。

3. その他所要の整理

契約内容照会制度にかかる記載を「ご契約のしおり」に一本化するため、以下の共済種類について「契約内容の開示に関する条項」を約款から削除する。

〈対象となる共済種類〉

終身共済、引受緩和型終身共済、一時払終身共済(H28.10)、定期生命共済、定期生命共済(通減期間設定型)、養老生命共済、こども共済、医療共済、引受緩和型医療共済

研修会はオンライン開催であったが、参加者は熱心に受講している様子が伝わってきた。

行事(3/10~4/10)

4月	
2日	交通安全啓蒙資材寄贈式(県農協会館)
2~4日	推進担当者コンプライアンス・共済基礎知識研修会(オンライン)
4日	令和6年度交通安全ラッピングバス運行式(弘南バス弘前営業所)
8日	令和6年度文化支援活動クリアファイル寄贈式(青森県庁)
9日	運営委員会(県農協会館)
9~11日	J-WAYS基本編・活動編研修会(県農協会館)

農作業安全対策
令和6年度
重点推進テーマ

「学ぼう！正しい安全知識」 ～機械作業の安全対策と熱中症の予防策～

農林水産省では令和6年度の農作業安全対策を、正しい安全知識の習得と熱中症の予防策等の理解のための研修の実施の強化が重要として取り組んでまいります。また、研修等を単独で開催するだけでなく、既存の会議などに農作業安全の内容をプラスすることで、研修等の回数を増やし、より多くの方々に正しい知識の提供を行ってまいります。

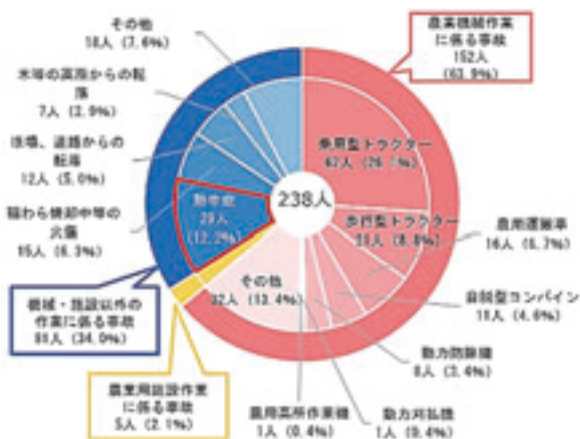
研修や講習会などの開催には、積極的にご出席いただきますようご協力をお願いします。

【要因別の死亡事故発生状況】

農林水産省の調査結果から、令和4年の農作業事故死亡者数は238名となっています。

要因別にみると、農業機械作業に係る事故が152名（63.9%）と高い状態となっています。

また、機械・施設以外の作業に係る事故では熱中症による死亡者は29名（12.2%）となっており、熱中症対策の強化が必要と考えられます。



【青森県の事故死亡者数は全国7番目】

令和4年に発生した都道府県別農作業事故死亡者数を見ると、青森県は8名で、鹿児島県（16名）、岩手県（14名）、北海道（13名）、長野県（12名）、宮城県（10名）、熊本県（10名）に次いで全国7番目に多い死亡者数となっています。

	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
青森県	13	10	6	11	14	8	8
全国	312	304	274	281	270	242	238

農作業死亡事故調査より（農林水産省）

【農作業安全対策の目標】

都道府県別の農作業事故死亡者数と農作業安全研修の実施状況について分析すると、より多くの農業者に対して研修を実施した方が平均死亡者数の減少が大きくなっていることから、農作業死亡事故者数を今後3年間で直近の件数から半減（238名→119名）するという目標達成に向けて、農作業安全に関する研修の実施強化が重要として取組を進めていきます。



【目標を達成するための推進活動】

- 令和6年5月から7月までを熱中症対策研修実施強化期間と設定し、予防策の研修・講習等を行います。
- 令和6年12月から令和7年2月までを農作業安全研修実施強化期間と設定し、安全対策の研修・講習を行います。
- その他の取組として、これまで実施されてきた対面や広報誌等を活用した農業者への注意喚起（声かけ）や「農林水産業・食品産業の作業安全のための規範やGAPの周知・実践」の働きかけなどを行います。また、農作業事故情報の収集と報告の徹底を行います。

農作業安全に関する研修を積極的に受講し、事故ゼロを目指しましょう！

実践 農業者支援

農業倉庫・カントリーエレベーターの自主的な衛生管理 ～求められる実質的HACCP～

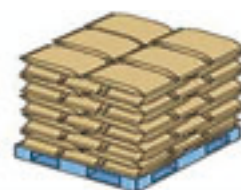
1. 経過と現状

近年、消費者の食に対する安全・安心への関心が高まり、食中毒等による健康被害を防止するため、衛生管理に関する国際的な基準（以下、「HACCP制度」）の義務化を柱とする食品衛生法が2018年6月に改正されました。このHACCP制度の義務化は、全ての食品事業者が対象となりますが、農業倉庫・カントリーエレベーター（以下、「CE」）については、生産者団体等による自主的な衛生管理を行うことを前提に、現在のところHACCP制度対象外となっています。しかしながら、全JA調査の結果をみますと、未実施の施設が散見されますので、改めて衛生管理の実施状況を確認する必要があります。

2. 農業倉庫における衛生管理の考え方

農業倉庫は、組合員が生産する農産物の保管事業として、次のような規程・要領等により運営されています。これらを保管する形で「衛生管理マニュアル」を設定します。

- ①農業倉庫業務規程（または要領）
- ②保管マニュアル
- ③農業倉庫保管管理日誌



3. 農業倉庫 衛生管理マニュアル（イメージ）

No	項目	内容
①-1	対象とする品目・事業者	米麦等を保管管理する事業者
①-2*	対象とする工程	入庫 → 保管 → 出庫
②-1	危害要因の特定	生物的危害・化学的危険・物理的危険
②-2	危害要因の評価	発生した際の影響度等の判定・重要な危害要因の判定
②-3	管理手法の決定	重要な危害要因の管理手段
②-4	危害要因の分析	（例）重篤性の高いカビ → 発生する可能性は低い管理が必要
③-1	一般衛生管理	環境衛生・設備の点検・防虫等対策・米麦等の取扱・従業員教育
③-2	特に留意が必要な項目	
④-1	実施と記録（保管）	点検管理を実施し所定の様式へ記入。問題があれば対策

※カントリーエレベーター 衛生管理マニュアルは①-2*対象とする工程に乾燥・貯蔵・精選・調整等が増えます。

4. まとめ

農業倉庫・CEの自主的な衛生管理については、全JA調査の対象になっていますので、実際には衛生管理が実施されていても未実施と報告している可能性もありますので、改めて確認をお願いします。また、万が一マニュアル等が設定されていない場合は、基本的なマニュアル等の様式もありますので、本会へ相談してください。

（中央会 農業対策部）

経営の窓口

内部統制システム基本方針における役員誓約書について

1. 内部統制システム基本方針の概要

(1) はじめに

内部統制システム基本方針は、会計監査人監査制度が令和元年に導入されたことを契機に設定された。これに基づきJAの内部統制のPDCAサイクルを確認することとなる。

(2) 内部統制システム基本方針の目的

理事は善管注意義務および忠実義務の観点から、内部統制の構築・運用の責任を負っている。そして、内部統制システム基本方針は、以下の課題を解決することを目的としている。

① 会計監査人への対応

理事が組合全体の内部統制を理解・運用し、適切な説明や必要な資料の提供をすることが求められる。

② 監事の責任変化への対応

改正農協法により、組合の業務内容の適切性、理事の職務執行の監査、監査方法に任務懈怠がないことを証明する必要がある。

③ 組合の内部統制の再構築

理事および理事会が組合の重要なリスクを認識可能な状況とするべく、内部統制を再構築する。また、そのための有効なモニタリングのあり方も検討する。

(3) 内部統制システム基本方針の構成

内部統制システム基本方針は以下の8項目で構成される。

内部統制システム基本方針（ひな型）

1. 理事及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
2. 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
4. 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
5. 監事監査の実効性を確保するための体制
6. 子会社等における業務の適正を確保するための体制
7. 財務情報その他組合情報を適切かつ適時に開示するための体制
8. 県中央会の業務監査、経営相談との連携

本県では直近で、令和5年3月に内部統制システム基本方針（ひな型）の修正案をお示ししている。また各項目における、「理事の取組事例」として内部統制システム基本方針の「補足資料」をご案内している。

2. 役員誓約書について

(1) 経緯

① 令和4年6月、他県においてJA役員による金融商品取引法違反事案が判明した。農水省は令和5年1月、「総合的な監督指針」を改正し、役員体制に係る主な着眼点における役員の適格性検証が強化された。

② 総合的な監督指針では、従来から役員体制に係る主な着眼点として適格性の検証が示されている（適格性＝「経営管理を的確、公正かつ効率的に遂行することができる知識及び経験」および「十

分な社会的信用)。

- ③ 令和5年1月の改正により、以下ア. およびイ. が追加された。

ア. 適格性検証のタイミングの追加：従来は選任プロセスにおいて適格性を検証することが示されていたが、就任後の任期中においても定期的または必要に応じて随時適格性を検証すること。

イ. 適格性検証の対象範囲の追加：十分な社会的信用の検証において兼職・兼業先の組合・法人の職務に係る法令等遵守状況も勘案すること。

(2) JAにおける対応

- ① 内部統制システム基本方針「1. 理事及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制」においては、更に項目が分類されている。その中に、「⑦業務上知り得た当組合および関連会社の取引先に関する未公表の重要事実を適切に管理する体制を整備する。」とある。この理事の取組例の一つとして、「補足資料」には「役員から就任時および定期的に「誓約書」の提出を受ける規程を策定し、適切に対応する。」と規定されており、今般JA全中よりその対応が示された。

- ② 役員からの誓約書の提出を受けるにあたり、JAでは「役員の行為基準」を設定することとなる。同基準の規定により、理事・監事は、欠格事由に該当した場合および特定の法令違反において処分された場合は、JAへ速やかに報告することとなる。また、誓約書により金融商品取引法遵守への対応がより明確になる。

内部統制システム基本方針に基づく金融商品取引法の
遵守徹底のための誓約書（例）

〇〇農業協同組合
代表理事組合長 殿

令和 年 月 日
住所
氏名

※自筆でご署名をお願いします

私は、貴組合および兼職・兼業先の組合・法人の役員等として、別紙の「役員の行為基準」を遵守するとともに、下記の事項を遵守することを誓約します。

記

1. 貴組合の在任中に知り得た貴組合および貴組合の利用者についての個人情報その他の機密を保持し正当な理由なく第三者に漏らしません。
2. 私が役員を退任する場合には、貴組合の在任中に職務の遂行上貴組合から交付を受けた業務上の資料および貴組合が利用者から取得された当該利用者に係る個人情報ならびにそれらの複製物については、その一切を貴組合に返還し、退任後においても上記1の義務を遵守します。

以上

3. さいごに

「役員の行為基準」に規定される内容は、従来各JA役員の皆様が遵守してきた内容に合致するものであり、それを書類形式で明文化したものである。誓約書形式となり、戸惑う方もおられるだろうが、JAの健全な内部統制構築のため、誓約書提出のご協力をお願いしたい。

(中央会 経営対策部)

組織農政通信

「食」「農」「協同組合」の理解醸成に向けて

第29回 J A 青森県大会において、「食」「農」「協同組合」の理解醸成を重点目標の一つとして掲げた。食料、農業の重要性や食料生産に大きく関わる J A の社会的役割の理解醸成をより一層図っていかねばならない。

今回は「食料」、特に地元産農産物への理解醸成に焦点を当てて、SNSを活用した県外 J A の優良な情報発信事例を紹介する。

【JA金沢市】

▼ X JA金沢市【公式】金沢から国消国産推し！（ユーザー名：ja_kanazawa）

月に約50回程度更新することで、フォロワー数を約2万7千人確保できており、県内外問わず広く一般消費者をターゲットとし、農産物の紹介や生産者の農作業風景、社会性話題に絡めて発信している。特徴としては一度の取材で、日本農業新聞への出稿にとどまらず、常に多数のSNSを活用して発信している。



JA金沢市
X QRコード



【JA晴れの国岡山】

▼ Instagram JA晴れの国岡山（ユーザー名：jahareoka_official）

管内の農産物やレシピの紹介などつい食べてみたくなるような投稿が多数。生産者を登場させることで、顔の見える安全・安心をアピールしており、安心して農産物を購入してみたい気持ちにさせることが特徴的である。



JA 晴れの国岡山
Instagram
QRコード



【JAふくしま未来】

▼ youtube みらいろチャンネル (ユーザー名: ja-fukushimamirai)

直売所や量販店での販売促進活動のほか、広報誌や Youtube 等の広報媒体へ農産物の豆知識を発信している。また20代の職員を中心に構成する農産物PRチーム「J-FAP」によるレシピ紹介や「農家にお邪魔します」などユニークな動画を盛り込むことでJAや管内産農畜産物の魅力を広く発信している。



JAふくしま未来
YouTube
QRコード



「食」「農」「協同組合」への理解を醸成するには、農業の生産現場で起きていること、JAで起きていることを多くの媒体を活用し、こまめに情報発信し続けること、目に留まりやすい内容で発信し続けることが必要である。

本会では、引き続き、全国での取組事例も参考に、情報発信チャネルの拡大と具体的な発信方法・内容を各JAと協議・検討しながら、戦略的かつ効果的にJAグループ内外への情報発信に努めてまいります。

(中央会 農業対策部)

職員向け研修会で共済事業理解へ

JAごしょつがるは1月24日、職員向けに「JA共済基礎研修会」を開いた。入組5年未満の職員を対象に、JA共済を身近に感じ、より共済事業を理解してもらうことが狙い。職員21人が参加した。これまでも同様の研修会を何度か実施しているが、共済担当職員が中心となり、グループワーク形式での研修を企画したのは今回が初めて。

研修会では、5人ほどのグループにLA（ライフアドバイザー）が配置され、各自加入している自動車共済の証書を見ながら補償内容を確認したり、どんな時に共済金が受け取れるのかを質問したりする他、こんな共済があったらいいなどの自由な意見を交わした。

参加した職員は「一方的に説明を受けるより内容がわかりやすかった。他部署の職員との関わりもあって楽しかった」と話し、共済事業への理解を深めた。



共済事業に関する疑問や意見を話し合う職員

直売所が本支店で出張販売

JAごしょつがるは2月15日、本店と各支店で年金受給日に合わせた来店感謝イベントを開いた。年金受給者へ粗品を進呈する他、共済相談会を同時開催。また、JA農産物直売所「まるっと新鮮館」の出張販売を各店舗で実施した。

イベントは、立ち寄りやすい店舗づくりと「まるっと新鮮館」のPRを兼ねて初めて開催された。本支店の入り口付近に設置された販売スペースには、直売所で人気のアップルパイやシフォンケーキ等、会員手作りのお菓子を中心とした商品が並び、にぎやかな雰囲気となった。販売にはJAの女性部員が協力。「出張販売やっています。見て行って」と積極的に声をかけ、来店者を呼び込んでいた。来店者は普段と違う様子に戸惑いながらも、商品を手に取り買い物を楽しんだ。



出張販売に立ち寄る来店者

JAでは、今後も継続して偶数月の年金受給日に合わせてイベントを開催していく予定。地域住民に愛される店舗づくりを目指す。

JAでは、今後も継続して偶数月の年金受給日に合わせてイベントを開催していく予定。地域住民に愛される店舗づくりを目指す。



JA青森中央会
農業対策部 組織農政課
おさない としたか
長内 亨公 さん

輝き

●プロフィール
2023年4月から勤務 つがる市出身

働くきっかけは？

地元JAの正組合員として農業に携わっていること、入会前はJA職員であったことから農業が非常に身近な存在であり、地域の農業振興に今まで以上に貢献したいと考えたためです。

業務内容を教えてください。

主に農政を担当しており、青森県農協農政対策委員会の事務局を務めています。本県選出国會議員への要請など様々な農政運動を通じて、本県の農家・組合員さんの農業経営やJA運営の力になれるよう業務にあたっています。

働いた感想は？

毎日楽しく働いていますが、わからないことばかりなので日々勉強です。

仕事をする上で、日頃心がけていることは？

良好なコミュニケーションが職場環境を良くすると思っているので、周囲への気配りを忘れず、何よりも楽しんで働くことです。業務については経験が浅い分、自ら仕事を探して早め早めに取り組むよう心がけています。

特技・趣味は？

エレキベース歴が27年になります。若い頃は全国各地にライブをしに行き、各地に色々な仲間ができました。昨年8月には、八戸市で開催されている「八食サマーフリーライブ」に久しぶりに遊びに行きました。

あなたが自慢できることは？

CDを出した当時、渋谷などのタワーレコードで大きく展開されました。挨拶に行きましたがサインがなかったので平仮名でパネルに名前を書いてきたとても恥ずかしい思い出があります。

将来の夢は？

いい歳のとり方をしたいです。充実した人生経験が顔や雰囲気にもしみ出るようなイケオジ？イケジイさん？になりたいいなと漠然と思っています。

弁当、文具で成長応援



JAつがる弘前は、子ども食堂や学習支援活動を行う「東地区ちいきの絆食堂」(中田早樹子代表)と共催で、弁当や野菜、文具等の無料配布を行っている。無料配布は年に2回程度行い、本年度で3年目となる。

この取組みは、持続可能な開発目標の1「貧困をなくそう」と2「飢餓をゼロに」、12「つくる責任つかう責任」の達成につながる。

配布する弁当は、女性部員が提供した野菜を使って、JAくらしの活動系の職員と同部員が調理し、毎回60個ほど作っている。

JAは鉛筆や下敷きなど学習用具を提供する他、本店の一部を会場として提供している。

これまで、夏には夏祭り、冬には餅つきなどを行い、本年は2月3日の節分にちなみ、豆まきを行った。JA職員が鬼のお面が登場し、参加した子どもらは「鬼は外、福は内」と元気に豆まきを楽しんだ後、恵方巻き弁当と文具等を受け取った。

今後も、地域に根差したJAを目指し、関係機関と協力しながらさまざまな支援活動を継続していく。



催事カレンダー

開催日時	JA名	イベント名	開催場所	問合せ先		備考
				部署	電話番号	
3月9日(土)～ 3月10日(日)	JA全農あおもり	鹿児島フェア in 青森	青森県観光物産館 アスパム	広報宣伝総合課	017-729-8637	

誉

自然由来で彩り豊か

自然由来の着色にこだわった自慢の「星もち」



J A相馬村特産販売課では、今年も干し餅作りが最盛期を迎えている。

湿気の少ない気候を生かし、外につるして凍った餅をそのまま乾燥させる極寒期に作られる保存食で、もち米を蒸すところから完成まで1、2ヵ月ほど要する。同管内は星のきれいな郷、として魅力を発信しているため「星もち」というネーミングで販売する。「星もち」は、1999年から同J A女性部有志が作ってきたが、現在はJ A事業として作られている。

この冬は合計368*。のもち米を農家女性が3人で加工。自家製野菜や果樹を用いた自然な着色にこだわり、リンゴ、カボチャ、ハックルベリー、ヨモギ、クルミ、ごま、コーヒー、アップルキャロットジュースの彩り豊かな8種類を作る。

(小) 7枚入り500円、(大) 10枚入り800円で、2月20日ごろから同J A直売所「林檎の森」の店頭に並び予定。

製作者リーダーの蝦名市子さん(74)は「水分を多く含ませ柔らかい餅にすることで、他にはない食感に仕上がっている。改良を加えて今年は割れが少なくなった。お客様に喜んでもらいたい」と笑顔で話した。

問い合わせ・注文はJ A相馬村直売所林檎の森、(TEL) 0172 (84) 3411。

後編 記集

2月下旬、雪が少なく、もう春かと思う日があるこの頃、おかしいですよね?

今回の写真はローソンのプレミアムロールケーキです。皆さんご存じ?の日本全国47都道府県ハピロー一計画と題した、お値段そのまま47%増量、盛りすぎチャレンジの商品の一つ。2月5日から販売され、無くなり次第終了。前にも同じキャンペーン中にどうにか買ったが、今回もどうにか買うことができました。とにかく半端ないクリームの量に感激、至福の時間を満喫させていただきました。

皆さんも食べられましたか?(ちなみにローソンの宣伝でないのです!)

それでは皆様、「SEE YOU ON APRIL!」(一)



ホームページアドレス

- J A青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・J A情報などをご覧いただけます。
- J Aバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJ Aバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- J A全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- J A共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
J A共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。